

K O I F U M I

FILE 01

もっと知りたい!!

病院のこと・先生のこと。

岩本内科医院

糖尿病内科・循環器内科・
内科・内分泌内科



〒765-0071 香川県善通寺市弘田町899-1

TEL 0877-62-1075

URL <https://www.iwamotonaka.jp>



岩本内科医院 院長
岩本正博先生

▼ 病院のココが自慢!

すべてのスタッフが明るく、優しい

▼ 患者さんと接するときに気をつけて
いることは?

患者さんの思いを聞き、一方的に話さない

▼ 医師になろうと思ったきっかけは?

父親の診療する姿を見ていて

▼ もし、医師になっていなかったら?

電車の運転手

▼ 先生が実施している健康法は?

空手の練習、愛犬虎太郎の散歩

どっち?

犬派

猫派

朝食は

和食

洋食

休日は

インドア派

アウトドア派

好きなもの(こと) Best3!

① 旅行

② 空手の試合の緊張感

③ ホームパーティー

フリースペース

我々夫婦は、平成26年から30年にかけて、
診療の合間に自家用車で四国八十八ヶ所巡り
を行ない、高野山へお礼参りに行きました。

新型コロナが落ち着けば、さらなる新しい
発見のために再度行きたい。



四国こどもとおとの医療センター 院長 横田一郎

ました。

KOIFUMIは、KO こころを込めて I いつも FU ふれあう医療を MI みなさんと の願いを込めてお届けします。当院の新しい診療機能や研修会などのご案内だけなく、先生方から頂いた情報とでお互いをより深く知ることができる紙面を心がけて参ります。

ご多忙なご診療の合間に、しばしお目通しいただければ幸いです。

2022年10月24日



「お接待ミールサポート in 香川」

入院されている患者さんやそのご家族を対象に
季節のお野菜たっぷりのお弁当とスイーツが
配布されました!

このイベントは子どもの入院に付き添う家族や、医療的ケア児を育てる家族を美味しいお弁当で応援する。という活動を続ける団体 NPOキープ・ママ・スマイリングさんのご厚意で実現しました。

お弁当は瀬戸芸のために来県された三ツ星シェフの米澤文雄さん、スイーツは香川短期大学の学生さんが調理を担当してくださいました。

高松で開催された関連トークイベントでは横田院長が、長期入院で病気と闘っている子どもや医療的ケア児の現状とそのご家族のサポート体制の構築、地域からの支援の重要性を伝えました。

その後、完成したお弁当は香川県立保健医療大学の学生たちがレンジャーの格好で当院まで届けてくださいり、場を賑

わせてくださいました。当院のゆるキャラだいちくんとそらみちゃんも3年ぶりに登場し、大喜びでお弁当を受け取りました。看護部長さんは感謝の気持ちを伝えるため、お弁当を受け取った患者さんからの感謝のメッセージとボランティアさんが作ったぬいぐるみをお返ししました。

美味しいお弁当のお陰で思いやりの循環が生まれ、関係者一同とても温かい気持ちになりました。

これからもお接待の文化を大切に育みながら患者さんの療養環境について考えていきたいと思います。



独立行政法人 国立病院機構

四国こどもとおとの医療センター

〒765-8507 善通寺市仙遊町 2-1-1

TEL 0877-62-1000

<https://shikoku-mc.hosp.go.jp>

交通機関 ▼善通寺 ICより車で5分

▼JR土讃線善通寺駅下車徒歩25分



四国こどもとおとな



10月から内分泌・代謝内科(成人)の 診療が開始されました

ご挨拶

四国こどもとおとなの医療センター
臨床研究部長 吉田 守美子

内分泌代謝科専門医、糖尿病専門医、老年科専門医、高血圧専門医、肥満症専門医、甲状腺専門医、動脈硬化専門医、臨床遺伝専門医



2022年9月に着任いたしました。これまで徳島大学血液・内分泌代謝内科学に勤務しておりました。どうぞよろしくお願ひいたします。

機能を有した治療デバイスは医療施設や介護者と連携することが可能で、インスリン治療中の高齢者のサポートにも有効です。当院でインスリン・GLP-1 製剤、リブレ導入後は、かかりつけ医で治療継続ができるよう十分な情報提供をいたします。

肥満症やメタボリックシンドロームで減量が必要な患者さんも積極的にご紹介ください。患者さんのやる気を引き出し、食事や運動・生活のアドバイスや行動療法を組み合わせて減量のサポートを行います。その他、若年発症成人型糖尿病(MODY)、家族性高コレステロール血症・原発性脂質異常症など、遺伝学的検査や遺伝カウンセリングも実施可能です。

内分泌疾患は、甲状腺疾患、副腎疾患、下垂体疾患、副甲状腺疾患、カルシウム・リン代謝異常など様々な疾患に対応が可能です。骨粗鬆症は高齢化に伴って増加していますが、治療を受けている方は20%に過ぎないといわれています。当院ではDXA法による骨密度測定を行い、最適な治療方針を提案いたします。

内分泌代謝疾患の診療において、かかりつけ医は長期にわたり患者さんの良きパートナーとして信頼関係を構築していく必要があります。地域連携のなかで私どもの役割として、適切なタイミングで最適な検査・治療を提供することを意識して診療にあたっております。どうぞお気軽にご紹介ください。

医療従事者の 糖尿病に対する偏見を 考えてみませんか

11月14日は世界糖尿病デーでした。

今年のテーマは、

アドボカシー

「糖尿病の偏見にNO！」

糖尿病領域におけるアドボカシーとは、患者の権利を守り、不当な偏見をなくすために医療者と患者が共に行政や社会の理解を得るために行う活動のことです。



「糖尿病」のステイグマ (不名誉な烙印)

昭和の高度成長期、糖尿病は不治の病で、治療手段が限られ悲惨な病気というイメージがありました。ぜいたく病と揶揄されたこともあります。網膜症による失明や腎不全による死亡が頻発していた時期には合併症をことさら強調し、寿命が短いことを印象付けてきました。近年、糖尿病治療は飛躍的に向上し、予後も大きく改善しています。しかし今なお、過去の糖尿病に対するイメージが社会に定着していることで、糖尿病のある人は自らに非がないにもかかわらず、不利益を被っています。これはステイグマ（恥・不名誉な烙印）と呼ばっています。糖尿病をもつてることで、非難、差別、決めつけ、ステレオタイプ化、人生における機会の制限を受けているかもしれません。これらのステイグマの発生源には医療従事者が含まれています。

「糖尿病」に対する イメージの払拭

糖尿病に対する負のイメージや医療従事者から発せられるステイグマは、糖尿病であることを周囲に隠す

社会的誤解や偏見は、不正確な情報・知識に起因する誤った認識（ことば）により生じることが多いとされています。糖尿病医療で習慣的に使われる不適切な用語（現在の疾患概念にそぐわない「療養指導」等）の使用はステイグマを生む可能性があります。当院では日本糖尿病協会のアドボカシー活動に賛同し、院内への理解を広めるとともに、糖尿病にまつわる院内の「ことば」を見直すプロジェクトを進めています。（詳しくは公益社団法人日本糖尿病協会ホームページをご覧ください）。こうした活動は糖尿病以外の疾病にも必要ではないでしょうか。

医療従事者が 不名誉な烙印を押さない

医療費増→社会保障を脅かす、といふ悪循環を生じます。「すみません」と医療従事者に謝ることは自己スマイルによる自尊心の低下と言えます。糖尿病の治療と予後が大きく改善した今、医療従事者には古い疫学データに基づく糖尿病のステイグマを払拭する義務があります。